

## 1 部門目標

- ・ 広い視野を持ち、検査に対する理解を深め、スタッフ間の連携強化に努める
- ・ 診療用放射線の安全利用の促進
- ・ 放射線被ばく低減に関する管理
- ・ 接遇の質の向上

## 2 業務体制・スタッフ

業務は、通常日勤業務、日当直業務（1名）、準夜・深夜勤業務（1名）と、3形態での体制で行っています。

この体制下、一般撮影室2室・CT室1室・X線テレビ室2室・乳房撮影室1室・MRI検査室1室・血管撮影室1室・核医学検査室1室・ポータブル撮影装置3台・手術室イメージ2台、リニアック1台、治療用CTシミュレータ1台を、常勤の放射線技師13名、非常勤放射線技師4名(会計年度任用職員)、受付業務4名(会計年度任用職員)、総勢21名のスタッフで対応しています。

## 3 業務実績

	平成30年度	令和元年	令和2年	率(元→02)
CT	8,464	8,965	9,452	5.4%
MRI	2,488	2,478	2,363	-4.6%
核医学検査	335	360	228	-36.7%
血管造影	446	276	434	57.2%
乳房撮影	1,426	1,245	1,019	-18.2%
一般撮影(他)	31,156	31,198	29,580	-5.2%
合計	44,315	44,522	43,076	-3.2%

## 4 1年間の総括

令和2年度の総検査件数は43,076件で、前年度に比べ1446件減少しました(-3.2%)。総検査件数の減少は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外来患者数の減少や診療状況の変化などが影響したものと考えます。

各モダリティ別の検査件数は、CT：9,452件、MRI：2,363件、核医学検査：228件、血管造影：434件、乳房撮影：1,019件、一般撮影他：29,580件で、令和元年度に比較し、それぞれ487件増(+5.4%)、115件減(-4.2%)、132件減(-36.7%)、158件増(+57.2%)、226件減、1446件(-3.2%)減でした。CTは検査件数が毎年増加しており、各診療科に加え、受け入れ患者数が増加している救急科からの検査依頼、新型コロナウイルス感染症への対応による検査依頼の増加が要因と考える。血管造影は、カテーテル治療を担当する循環器内科医が増員されことにより検査件数が大幅に増加、経皮的冠動脈形成術(PCI)の件数も155件(80件増)となった。MRI、核医学検査、乳房撮影、一般撮影(他)は検査件数が減少した。

今年度は検査機器の更新は見送りとなったが、新たな検査手技に対応するため CT および SPECT のソフトウェアバージョンアップを実施した。

令和 2 年 2 月に策定した「千葉市立海浜病院診療用放射線の安全利用のための指針」および「診療用放射線の安全利用のための指針マニュアル」に基づき、医療放射線安全責任者の配置及び医療放射線管理委員会の設置および、「管理・記録対象医療機器」の線量記録および線量管理を実施した。

## 5 今後の目標

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、診療体制がどのように変化していくのかを予測するのは非常に困難ではあるが、引き続き感染症対策を優先しながら安心・安全な検査体制の構築を進める。

新病院に向けて、診療体制や放射線関連の機器、検査室の整備などについても方向性が示されてくることから、最新の検査技術の修得を目指して学会、研究会等への参加や勉強会を開催し、スタッフの教育を進めていく。検査機器の更新についても新病院での導入計画と検査機器の安定稼働などを踏まえて計画的な更新スケジュールの立案を行っていく。

次年度は診療用放射線の安全管理に加え、改正電離放射線障害防止規則が施行され、放射線業務従事者の眼の水晶体に受ける等価線量の限度引き下げに伴う従事者被ばくの管理が求められるため、防護メガネの利用促進および防護メガネ内側での適切な線量測定を実施していく予定である。